

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称	基礎製図演習 I						授業形態	演習	
科目コード	260002	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	
担当教員名	岡島 直方								
授業概要	図面表現の基礎を学びます。道具を使いながら手描きで図面を描く。工学系の学科における「図学」のごく初歩の内容を含む。使う道具は、三角定規、コンパス、直定規、分度器、雲形定規、ペン、鉛筆、色鉛筆、水彩道具、三角スケール、プレートなどである。道具の使い方から始まり、線の描き方、正射投影法と進む。								
関連する科目	原則として、必ず「基礎製図演習Ⅱ」と併せて受講すること。後継する別の科目としては「庭園学演習」「敷地計画論演習」「コンピュータ・CAD演習」などがあり、これらは一連の授業体系を構成している。2年生前期の「庭園学演習」を受講する前に、「基礎製図演習Ⅰ」と「基礎製図演習Ⅱ」の両方の単位を取得しておく必要がある。								
授業の進め方と方法	時間中に課題が出されますので、それに取り組んで提出してもらう。課題を仕上げるのにかかる時間には個人差がある。その年度によって学生の課題進捗状況を見ながら次の課題に進めるが、ある割合の学生が完成すれば、次の課題に移っていく。課題は時間内に終わるものばかりではないので、授業中に完成できない場合は、各自で課外時間を使って仕上げなければならない。演習は1日に90分授業を2コマ連続して行うため、合計180分となる。下の授業計画では2回分が一日分である。1回だけ問題解決型の総合課題が課され発表会や評価を行うことがある。								
授業計画【第1回】	1. ガイダンス（概要説明、各種製図道具の説明） 本授業がどのようなものであるのか、という説明を行ったあと、本演習で用いる携帯用製図道具について板書などで説明する。								
授業計画【第2回】	2. ガイダンス（各種製図道具の説明、フォーマット、初日用練習課題） 引き続き、本演習で用いる携帯用製図道具の役割、販売価格などを伝える。その後、製図室の使い方や、今後の提出用紙の使い方を話し、時間があれば、実際に線を引いてもらう。								
授業計画【第3回】	3. 製図道具についての再確認と小テスト（この時までに道具を揃えること） 名称を覚えてもらう。								
授業計画【第4回】	4. 今ある道具で直線2種類を描いてみる（この時までに道具を揃えること） 線では描き分けが大切であることを伝え、実践してもらう。								
授業計画【第5回】	5. レタリングの要点の説明（板書）、製図台の使い方復習、三角定規の使い方 図面を美しく見せるという観点から、文字のデザインを通じて、バランスや美しさというものがどういった観点から追及されてきたかについて学ぶ。								
授業計画【第6回】	6. レタリングの課題（模範を見ながらアルファベット、セリフ体を描く） 規定の事態のバランス、美しさ、法則性について、実際に描いてみることで体験する。								
授業計画【第7回】	7. 線の描き分けの意味（太、中、細）の説明。道具を用いて具体的な図面を描く課題の説明。（簡単な造園平面図、立面図など） 実用的には3種類の線の描き分けが必要であり、それらを実習する。（このときまでの必須道具、大きめの三角定規、50cmほどの直定規）								
授業計画【第8回】	8. 道具を用いて具体的な図面を描く課題の実施。（簡単な造園平面図、立面図など）（* GLや断面の外形は太く描くなどのポイントを説明） これまで説明した道具の使い方によって、造園的に意味を持つ実際の図面を描く。 （必須道具：大きめの三角定規、直定規）								
授業計画【第9回】	9. コンパスなどを使った幾何学図形1の説明（12課題）（携帯用製図道具は各自すでにそろえてあるという想定での演習） 製図セットの中に入っている、いろいろな道具をどのように使って、幾何学的な図形を描いてもらうか解説する。								
授業計画【第10回】	10. コンパスを使った幾何学図形1（12課題）の実施 製図セットの中に入っている、いろいろな道具を使って、幾何学的な図形を描いてもらう。								
授業計画【第11回】	11. 前回（12課題）のつづき、コンパスを使った幾何学図形2の説明（4課題）の説明 前回の課題が終了していない学生には少し時間をもたせ、新たな4課題の説明をする。								

授業計画 【第12回】	12. コンパスを使った幾何学図形2の説明（4課題）の実施 各種製図道具を使って、新たな4種類の図形を描く。
授業計画 【第13回】	13. 前回（4課題）のつづき、3種類の線の描き分け 前回のつづきと、基礎のまとめとしての線の描き分けができているか確認する。
授業計画 【第14回】	14. 未提出課題などに取り組む時間 未提出課題がない学生には、新たな課題に取り組んでもらいつつ、全員の進み具合を統一したい。
授業計画 【第15回】	15. 正射投影図の説明と簡単な正射投影図の実施 3次元空間を紙の上に表現する工夫としての正射投影図の描き方の説明をし、実際に簡易な図をかいてもらう。
授業の到達目標	図面を描く上で必要になる基礎的な概念をつかんだうえで実際に演習する。手書きで図面を書く際の基本的な道具の使い方を習得する。各種図面の描き方の法則を知る。ほぼ全課題にわたって、準備された模範に合わせて描くことで基礎を習得する。1) 正しい方法で、製図台や定規を使って直線を引くことができるようになること（5回目までくらいが肝心である）。2) 線を用途によって3種類に描き分けられるようになること。3) 丁寧に仕上げること。4) 適切に図を描くこと。5) 作図原理を理解すること。 【専門分野のスキル】【高度な専門力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外の学修 【予習】	次回の授業内容を提示するので、関連情報を収集し、求められる内容を理解する（30分程度）
授業時間外の学修 【復習】	授業で学んだ内容を振り返り、要点を整理する（30分程度） 課題への取り組みに時間がかかる場合は、次の授業までに、完成に向けて作図を進めること（1時間程度）
課題に対する フィードバック	提出課題をチェックして返却する。
評価方法・基準	課題提出物で100点分となる。 授業態度で減点されることがある。欠席が6回より多くなると出席不足となる。 課題はすべて提出する必要がある。提出数が少ないと減点となる。 課題の配点は、課題内容によって異なる（総合性のある課題、おさらい的要素のある課題の配点が多い）場合がある。
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	適宜プリントを配布する。
備考	これまで全く製図をしたことがなくて関心がある学生、高校で造園製図をとっていたが製図の原理に関して未知のことを発掘したい学生などが対象となる。内容は基礎ではあることは間違いないが、道具を使い、作業に緻密さが要求されるので、細かい作業が苦手な学生、極端に不器用な学生にはきびしい演習となる。受講に当たっては、できるだけ早く製図道具をそろえること。また、幾何学的図形を描き始める9回目以降ぐらいから、学生により完成にかかる時間に違いが出てくる。分からないことはできるだけ早く教員に尋ねて方法を理解し、問題を解決させること。授業中は演習作業を行う時間となっているが、分からないことがあれば、その場で聞いてください。欠席した回に基礎が教えられていた場合、その後、その回のやり方が前提となってしまうことがあり、流れにのるのが難しくなる場合がある。